

the Lion



ザ・ライオンタイムズ DISTRICT 334-C

2016-2017

VOL.3



菊川市丹野池公園

地区ガバナーアピール

第63回地区年次大会へのお誘い

女性会員増強について

特色あるクラブ活動の紹介

事務局便り

地区ガバナーアピール



地区ガバナー 坂倉 三吉

ライオンズクラブ国際協会は輝かしい100周年を迎え、希望を胸に船出しました。メンバー皆様の暖かいご支援ご協力の下、上半期を順調に経過することが出来ました。

8月より始まったガバナー公式訪問は、14ゾーン全てを9月一杯で完了出来たことは、各ゾーン共にメンバー皆様の共通認識が強く感じられ、とても心強かったです。

各ゾーン共に人口減少・高齢化が叫ばれる中、会員増強に大変ご苦勞をされていると思われました。

上半期の国際協会の重要なイベントである東洋・東南アジアフォーラムが香港で11月に開催され、ガバナー入場時には大変感激致しました。と同時に、各種会議において大変な責任と覚悟が必要と痛感しました。また、我が334複合地区のE地区・元地区ガバナーL佐藤義雄が国際理事候補者として推薦決議され、シカゴ国際大会において投票に附されることになりました。

是非当C地区の多くの同志メンバーにはシカゴ国際大会に参加・投票して頂き、L佐藤義雄

の国際理事誕生と、現第一副地区ガバナーL岩崎一雄の地区ガバナー誕生の瞬間に立ち会って、共に祝意を分かち合おうではありませんか。

さて、今期の私の基本方針の一つに会員増強を掲げました。今年度スタート時正会員数は2,909人でしたが、上半期12月末時点では33人の純増で2,942人。昨年暮れには危機感を覚え、ガバナーチーム・GMT・GLTコーディネーターと協議し、再度各ゾーンを訪問し会員増強の必要性を強く訴え、さらなる活動の推進をお願いした次第です。

各クラブ会長をはじめ関係役員の皆様には、特に下半期は退会防止を心掛け、全クラブ会員純増でゴールを目指して頂きたくお願い致します。

結びに当たり、5月14日の第63回地区年次大会は地区史上初めて、伊豆半島下田市にて開催致します。奮ってご参加いただき、開国の港町下田市を大いに楽しんで、今年度の集大成としての年次大会の大成功に結びつけていただくよう、心から願っております。

SPECIAL EDITION

「第63回地区年次大会へのお誘い」

第63回地区年次大会委員長 伊 藤 秀 利

334-C地区第63回年次大会を2017年5月14日(日)に下田市民文化会館に於いて開催するべく、坂倉三吉地区ガバナーの「広めよう奉仕の輪、繋げよう次の100年へ、愛と希望をのせて！」のスローガンを合言葉に、現在、4R1Zの関係地区役員を始め6クラブの会長・幹事様のご協力の下、準備委員会を立ち上げ、チャリティゴルフ大会や式典へのお誘いに遺漏なきよう、多岐にわたりご検討頂いているところであります。

静岡県内でも指折りの温泉地で、歴史に残る名所旧跡が多い4R1Zでの地区大会に足をお運び頂くわけですから、行き帰りにはご参加くださるライオン各位には、思い出に残るような、「遠く下田まで足を運んでよかった…」と言われるような思いをもってお帰り頂けたら・・・などと、準備委員会の面々が知恵を絞ってくれております。

下田ライオンズクラブは結成以来54年の年月は経ておりますが、地理的にも物理的にも地区ガバナーを輩出することが難しく、今回初めての大役となりました。

国内でも屈指の温暖の地・伊豆は、冬は下田爪木崎の水仙・熱海の梅園・早咲きの桜、早春には河津桜・南伊豆の桜と菜の花・伊東の桜の園・伊豆高原のさつき・ブーゲンビリア等々が、また西伊豆にはロマンあふれる夕日の景勝地、下田港は幕末の開国に関わる黒船来航、吉田松陰先生の密航の企て、勝海舟・坂本龍馬、はたまた唐人お吉の逸話など、数多い話題豊富な地でございます。

周囲は太平洋に沿った岬に恵まれ、夏には「世界一美しい海」をキャッチフレーズに市を挙げてPRに努めております。

近年、温泉地に対する大衆の嗜好が変わり、姿を消しつつある芸者衆ですが、京都では舞妓さんが世界に名を覇せております。伊豆にあっても熱海芸者衆の「華の舞」は芸術の域に達しております。

年次大会のアトラクションは、下田ライオンズクラブが支援する下田中学校の生徒によるブラスバンド演奏と、熱海ライオンズクラブの協力による熱海芸者衆の「華の舞」で、ご参加各位の肩の荷をほぐすのに一役買うものと思います。

「繋げよう次の100年へ、愛と希望をのせて！」のスローガンに一役買えたら幸いとの思いで頑張っております。是非多くのメンバー各位にご参集頂けることを祈念しつつ、心よりお越しをお待ちしております。



ホスト 4R1Z・下田・熱海・伊東・東伊豆・西伊豆・河津ライオンズクラブ

伊豆下田

広めよう奉仕の輪、
繋げよう次の100年へ、
愛と希望をのせて！

ライオンズクラブ国際協会

334-C地区 第63回 年次大会

2017年5月14日(日)

場所 / 下田市民文化会館



SPECIAL EDITION

女性会員増強について

FWC (コーディネーター) 兼

女性会員増強推進特別委員長 松 本 清 子



近年色々な場面での女性の活躍が目立つ中、昨年10月21日にFWT全日本女性フォーラムに参加させていただきました。その中で、6月に開催された福岡国際大会において、国際協会第二副会長に女性初で選出されたL. グッドラン・ビョート・イングバドター（アイスランド）の基調講演を聴かせていただきました。L. グッドランは女性会員増強の重要性を熱く述べられ、また、ボランティアに関心がある人の割合は、女性の方が男性よりも多いこと、クラブ入会後の退会者の割合においても、女性の方が少ないこと、また、女性リーダーが持つソフトリーダーシップの重要性についても説いておられました。

100周年を祝う年に女性初の国際第一副会長を迎えることは、ますます女性会員増強意識に対しての高揚、クラブの活性化と発展につながる一步になっていくと考えます。

また、より多くの女性がライオンズ活動に参加することにより、男性が今まで考えてもみななかったような、女性ならではのプロジェクトやニーズ、異なったアイデアを見出すことに繋がることと思います。実際に各地区のアクティビティ報告でも「女性目線でのネクタイの再利用」「一人っ子のハロウィーンへの招待」「命の大切さを学ぶ赤ちゃん抱っこ」「がん患者へのヘアードネーション」「お見合婚活活動」「街中の花一杯運動」など数多くの活動が実施されているとありました。これも女性または家族会員が、多くの男性とともに楽しくライオンズ活動に参加するのに大切なことと感じます。



11月の334複合地区家族及び女性委員会の報告でも、FWTセミナーや、女性フォーラム開催を予定している地区があり、女性にライオンズ活動を知っていただく動きが活発化してきました。

その様な中で、当地区にはまだまだ女性・家族会員の少ないクラブがたくさんありますが、女性も参画していける奉仕活動の検討が大切だと感じます。ひと昔前は、女性や家族会員がとても少なかったと思いますが、今は違います。多くの地区で女性会員が増えてきています。女性が入会する可能性は多くあると考えます。それにはライオンズ活動がどんなものなのかを広くPRし、女性にはハードルが高い等の様々なイメージを払拭する必要があります。

私の所属するクラブの会員数は31名ですが、現在女性正会員5名・女性子会員3名と合計8名の女性が在籍しています。これもクラブ会員の活動を見て興味をもっていたいただき、少しずつですが入会して下さった結果、この数になってきました。奉仕活動には積極的に参加して下さり、クラブの一步前進と活発化につながっています。これからも女性ならではの活動をする事で、さらに会員増強につなげていきたいと思っています。人口の半分は女性です。今の時代、男性だからとか女性だからという時代ではありません。

ライオンズクラブ100年の歴史の中で、1987年台北での国際大会で女性会員が認められてから29年になります。2015年1月にはFWTがスタートし、女性会員や家族会員の定着と女性リーダーの育成を目的に各地区に即した活動を展開しております。

これからは男性の良いところ、女性ならではの良いところが共存し、さらに楽しいライオンズライフとなって、全ての会員の維持増強につながっていくことを願っております。

SPECIAL EDITION

学校建設計画の決断（LCIF交付金を受けて実現）

1 R ・ 1 Z 浜松南 L C



発展途上国へ学校をつくることの難しさを感じ、第一に考えたことは情報収集でした。当時私の知人がJICAの派遣によりタイの日本人学校で教師をしておりましたので、現地の文化や経済、学校の事などを話していただきました。その学校では、世界各国から教師が派遣され、それぞれの国と文化交流が広がっていると聞き、まさにライオンズクラブの行っている交流事業に通ずるものがあると思いました。

私は会長に就任する半年前からJICAやアジア日本相互交流センター日本事務所に相談を持ち掛け情報収集をし、クラブ内では何度も話し合いを重ねていきました。当時、フィリピンの一部地域では、ゲリラによる紛争もあり、渡航には要注意とされていました。そんな状況下でしたが、実際に現地視察をすることが大切と考え、2010年2月に私を含めた次期役員6名は、アジア日本相互交流センターのフィリピンマニラ事務所を訪れ、ミンダナオ島、ジェネラルサントス市マリガヤ村の学校建設予定地を視察しました。

マリガヤ村はジェネラルサントス市内でも辺鄙な区域の一つです。当時は、村の小さな集会所を教室代わりに使って、約70名の子供たちをたった1人の教師が教えていました。現地に行くことにより治安も含めた状況を把握できたことが当クラブ会員の理解に繋がったと思っています。

ジェネラルサントスマリガヤ村の生活環境は、かつて私たちが通ってきた40～50年くらい前とよく似ております。私たちは自らの奉仕の原点に立ち帰り、このマリガヤ村に学校を建設することで少しでもジェネラルサントスの教育環境が良くなればと考えました。



しかし裕福な国に育った人間が発展途上国の人々を支援することはとても難しいことです。知らないうちに上から見下ろして彼らの自尊心を傷つけてはいけません。もっとも大切な事は、現地の人たちと友好を築き、お互いを尊重して本当の意味での人間関係を築くことだと思います。学校を建ててあげるのではなく、建てさせてもらう。そして、友達になろうとする気持ちを持つことが一時的な活動で終わらない交流だと思っています。

学校の完成そして日本の子供たちとの交流

学校建設においては、現地の気候を十分に考慮し、直射日光を遮る長い屋根を持たせました。また、天井を高くすることで、通風、採光を確保し、さらに現地村人による補修可能な設計にしました。インフラ整備の水道工事は12km先の水源から水を通す工事によって衛生環境が良くなり、就学機会が増え、教育水準がさらに改善されていくと期待しております。

竣工式にはジェネラルサントス市長、教育長、教育省職員、マリガヤ、バルナボ、アspan村の各村長、アspan小学校校長、教師、PTA会長、ライオンズクラブのメンバー、そして当クラブのメンバー10名が列席して盛大に行われました。

ジェネラルサントス市長からは「マリガヤの子供たちに学校という贈り物をいただき感謝に堪えません。現地視察でこの地に来てから完成まで長い道のりで、多大な困難を乗り越えて来られたのだと察します。その分、子供たちの嬉しそうな顔を見ているととても良いプロジェクトであったと感じております。」とメッセージをいただき当クラブとしても同じ思いを感じました。

また、教育長ウリオサさんからは、「故郷の一つとしていつでも帰ってきてください。」と温かいお言葉をいただきました。この学校建設をきっかけに築いた友好関係をさらに高め、世界平和へと繋がっていくことを願っています。

現在は数年に一度の事業として、日本の子供たちとの絵画交流や文具用品の提供をしてマリガヤの子供たちとの交流を行っております。また、2015年2月にマリガヤ小学校に棚等を寄贈しに訪問した折には、私たちの小学校建設がきっかけとなったのか、隣の敷地に中学校の建設が始まっていました。私たちは今後もこの交流を続けて参ります。

SPECIAL EDITION

小山LC献眼活動の仕組み(取組み)

3 R ・ 3 Z 小山LC



1. 献眼活動の発祥

小山ライオンズクラブは、1964年11月に結成されました。その後5周年記念事業を機に、今後のクラブ奉仕活動について検討した結果、ライオニズムの信念に基づいた人道的奉仕活動として*生前は「献血」*亡くなったら「献眼」を奉仕活動の中心として取り組むことを決めました。中でも献眼活動はクラブの重点活動と位置付けメンバー全員が不退転の決意で臨みました。その証左として、メンバーとその家族全員が先ず献眼登録を行いました。メンバーは親戚・知人などへの声掛けを手始めに、一人3～5名程度のノルマを持って活動を開始しました。しかし2年間は一人の献眼者も有りませんでした。

それから2年後の、1972年5月にご逝去されたメンバー(83歳)が献眼者第1号となり、当クラブ献眼活動の実績が始まりました。

2. 献眼活動の具体的な取組み

(1) アイバンク委員会

小山ライオンズクラブはチャーターメンバー34名で出発した小規模のクラブであったため①アイバンク委員は4～5名程度の少人数であり、献眼対応は事務局が受付・連絡にあたり②摘出医師の出迎え・摘出立会いは事務局から連絡を受けた会員が対応しました。※しかし、この方法では献眼者数が増えるにつれ、日夜を問わない献眼者対応を行うアイバンク委員や事務局の負担が限界となり、献眼活動そのものが存続の危機を感じるようになりました。そこで検討を重ねて2005年7月から次のように組織変更を行いました。

- ア) メンバー全員をアイバンク委員会に所属させ、4チームに分け各チームにアイバンク副委員長を置いて班の受け持ち期間(2か月)を定めました。
- イ) 受付・連絡は事務局員の勤務時間内は事務局、事務局員不在時及び夜間は担当会員が所持している専用携帯電話で行う。



ウ) 摘出医師出迎え・摘出立会いは、担当班内のメンバーが連絡し合い行なうこととした。

(2) 献眼者ご遺族への対応

献眼申し出から摘出までは担当会員が行いますが、その後の葬儀等にはメンバー全員が次のように参加します。

①通夜＝参加できる会員全員が参列

②葬儀＝ア) 参列できる会員全員が参列

イ) ガバナー感謝状贈呈はアイバンク委員長

ウ) 弔辞は小山ライオンズクラブ会長

エ) 弔電はガバナーと県アイバンク理事長

オ) 供物（生花）は静岡県アイバンク

（生花・香典）は小山ライオンズクラブ

③感謝状伝達式

厚生労働大臣感謝状の伝達及び静岡県アイバンク理事長からの感謝状贈呈は、年1回行われる小山町・小山町社会福祉協議会主催で小山ライオンズクラブ共催の「小山町社会福祉大会」において実施する。

④その後の対応

ア) 春・秋のお彼岸

毎年、献眼者遺族会(1990年発足)の皆様と献眼者慰霊碑前で供養祭を行っている。

(3) 献眼について理解を深めるための施策

①町当局に協力依頼

ア) 同報無線による献眼者周知(遺族承諾)

イ) 広報等へライオンズ活動記事掲載など

ウ) 町主催の各種会議でのPR

②各種催し会場での献眼登録活動

ア) 社会福祉大会・ふれあい広場・産業祭などの催し会場での登録受付、周知品配布

イ) 地方紙へ献眼者記事掲載

3. おわりに

現在、小山町では亡くなられた方の4人に1人以上の方が献眼される程になっています。これは、先人の辛抱強く弛まない努力の結果であると考えます。それを守り続ける努力も重要です。どのクラブも特異性はありません。決めたら実行、実行したら継続です。

SPECIAL EDITION

濃厚！新会員セミナー

4 R ・ 1 Z 伊東 L C



2014年～2015年時の会長L 田畑勉並びに会員委員会委員長L 堀井賢一の主導のもと新会員セミナーが実施された。起こりは、在籍3年以下の17名の会員が会員総数の3分の1以上を占めることに気づいたことに始まる。彼らが何年か後にクラブの主体となる以上、今しっかりした指導をしなければならないとの危機感、責任感が会長等にあった。会則や用語説明に終わることなく、クラブ精神の承継を目指すことになり、クラブ独自の自前の研修資料の作成に着手した。

【事業の概要】

年に6回の研修機会を設け、毎回研修時間の前半を先輩会員の講話を聞き、後半は講話を受けての自由討議とする。

第1回9月

①会則/規約/日常的なルールの説明 ②ワークショップ（自由討議）

第2回10月

①先輩会員の講話

テーマ「伝承と改革；思いは一つ」 ②ワークショップ（自由討議）

第3回11月

①先輩会員の講話

テーマ「奉仕によって磨かれるもの」 ②ワークショップ（自由討議）

第4回12月

①先輩会員の講話

テーマ「真剣に取り組むことの価値」 ②ワークショップ（新規事業案の検討）

第5回1月

①先輩会員の講話

テーマ「新規事業企画への挑戦」 ②ワークショップ（新規事業案の協議）

第6回2月

①模擬理事会（新規事業予算案の審議）この後、新規事業の実践にチャレンジ



【研修が目指したもの】

入会年次の浅い内はクラブ内では遠慮しているのか、とにかく受け身になりがちである。やりたいことがあるのに、言い出せないでいる。発言しないことがクラブでの埋没を招き、個性の発揮場所を失くし、結果的にクラブに対して魅力を感じなくなってしまう。

積極的にクラブに関わる会員になってもらいたい。お喋りであることが一番会員セミナーの方向性が定まった。

具体的には次のような事項を研修内容に盛り込んだ。

- 先輩会員の講話により、伊東クラブの歴史を通し奉仕の考え方、あり方のヒントにしてもらう。
- ワークショップで自由に発言することが奉仕の第一歩であると自覚し、積極的な発言が自分を楽しくさせると感じてもらう。
- 研修の成果として、新会員自身が既存の事業にとらわれることなく新規事業を企画し責任をもって実践してもらう。
- 模擬理事会を開催し、本理事会と変わらない真剣な議論を経験し、理事会での事案の決し方を実践的に体験する。

【研修の成果】

先輩の話を聞くことで、互いの距離感が縮まり、新会員同士の相互理解も深まった。研修の出席率は90%近くとなり、ほとんどの会員が皆出席し、会員委員会の方が彼らの取組む姿勢に感銘を受け、回を重ねる毎に研修に熱が入っていったことを覚えている。

会員に自由闊達な発言を求めるクラブの雰囲気はその後も事業として継続されている。翌年には「おしゃべりサロン小論包」として、今年度は「談話室」として受継がれている。メンバーとして同じ知識・価値観を共有することが出来、現在彼らはクラブの中核になりつつある。

INFORMATION

事務局だより

2016～2017年度第3回キャビネット会議報告



2016～2017年度第3回キャビネット会議が2月22日(水)静岡市において開催されました。当日承認された主な事項は次の通りです。詳細は、資料と議事要録でご確認下さい。

《協議事項》

1. 2016～2017年度キャビネット会計中間報告並びに監査報告
2. 次期地区役員・三役セミナー開催日程等について
3. 1R1Z浜松西・浜松若葉LC合併について
4. 第63回地区年次大会議事規則・代議員議事運営構成表・当日投票実施手順・年次表彰規定確認
5. 同大会、前当日スケジュール分担・使用会場控室等について
6. 次期地区ガバナー・第一副地区ガバナー及び第二副地区ガバナー立候補者承認と、次期キャビネット幹事・会計予定者について

※キャビネット会議議事要録をはじめ、地区の各種委員会議事要録や統計資料は地区ホームページの「会員専用」ページに公開しています。会員専用ページに入るにはパスワードが必要です。クラブ事務局かキャビネット事務局にお問い合わせ下さい。

3月～6月のキャビネットスケジュール

3/15(水)	第3回地区GMT・GLT会議
3/22(水)～3/23(木)	夏季派遣青少年宿泊オリエンテーション
3/27(月)	第4回LCIF・献眼・献腎・献血委員会
3/28(火)	第4回青少年・薬物乱用防止 ライオンズクエスト委員会
4/ 6(木)	第63回地区年次大会記念チャリティゴルフ大会
4/11(火)	地区3月末会計監査 第4回地区ガバナーチーム会議 年次表彰最終審査会
4/19(水)	第63回地区年次大会第4回実行委員会
4/26(水)	第4回キャビネット会議
5/13(土)	地区年次大会リハーサル
5/14(日)	第63回地区年次大会

2016年11月～2017年1月 物故ライオン

逝去日	物故ライオン名	所属クラブ
2016.11.11	L 長 田 守 弘	富士宮中央LC
2016.11.12	L 増 田 三 郎	富士吉原LC
2016.12. 1	L 渡 辺 鉄 雄	函 南LC
2016.12.12	L 磯 部 昭 次	浜 北LC
2016.12.13	L 秋 山 範 雄	富士吉原LC
2017. 1.12	L 瀬 口 君仕郎	清水みなとLC
2017. 1.29	L 石 黒 久 善	土 肥LC



菊川市 黒田代官屋敷 長屋門



菊川市 赤レンガ倉庫